

YAおすすめ ブックリスト



第34号 2020.3発行
くにたち中央図書館

令和2年度 YAすたっぷを募集します！

YA（ヤングアダルト）は子どもと大人の間、13～18歳くらいの若者のことです。

YA（ワイエー）すたっぷは、図書館ボランティアとして10代向けイベントの企画・運営やPOPづくりをしたり、お互いの好きな本を語り合ったりしています☆

令和元年度は、図書館員体験イベントを3日間連続で開催したり、福袋みたいでどきどき☆なブラインドブックフェアを催したりしたよ。みんなで意見を出し合っってイベントを作り上げていくのは楽しいし、すごくやりがいを感じるよ！

本が好きな人や図書館が好きな人、イベントの運営などに興味のある人、応募をお待ちしています！まずは見学してみたい、という人も大歓迎です。

- 対象 市内在住、在学の中学生以上の10代の人
- 活動日 毎月1回程度。翌月の予定をみんなで相談
- 活動場所 中央図書館
- 第1回活動日 5月17日（日）10～12時
- 応募方法 中央図書館へ電話、または来館
- 問合せ・申込み 中央図書館 042-576-0161

今年も大人気！ ブラインドブックフェア

昨年度に引き続き、今年度も中央図書館でブラインドブックフェアを行いました！

YA すたっぷのみんなが協力して作ったブラインドブックは、144冊。

そのうちの **115冊が貸出！** すごい！！



わいわい
作業したよ♪



企画・準備は
YAすたっぷ☆

カラフルな
展示棚が
作れたよ！



利用者からは、「ブラインドブックは開く時、どんな本がでてくるのかな…？と、とてもわくわくして楽しかったです。」「包装紙に貼ってあるポップがとても良かったです。」「去年もたのしかったけど今年もあったのでうれしかった。毎年ぜひ続けて下さい。」などなど、たくさんの感想をいただきました！ やったね(*^▽^*)

今後も楽しいイベントを企画運営していく予定！

YAすたっぷの活動が気になる人はミーティングを見学してみてね☆

YA担当が選んだ☆

おすすめ本紹介

『思いはいのり、言葉はつばさ』

(まはら三桃：著/アリス館/2019.7)

中国に古くから伝わるニューウシュ（女書）という文字に夢中になった女の子のお話です。主人公チャオミンの住む集落では女たちが家に集まり、おしゃべりや歌を歌いながら手仕事を覚えます。ニューウシュを習うことでチャオミンは大人の世界を知り成長していきます。



キーボードやスマートフォンで文字入力することが多い私たちですが、「文字を書くこと」にじっくり向き合いたくなる本です。文字によって思いを伝える、自分の気持ちを書き留める「つぶやき？」は現代にも共通しているのかもしれませんが。

美しい文字ニューウシュを連想させる装丁がとてもかわいいです！

『青の王』

(廣嶋玲子：著 装画：橋賢亀 装幀：内海由/東京創元社/2017.4)

表紙がきれいで、思わず手に取りました。表紙に気合いが入っている本はたいてい、面白いのです。

人間の王が君臨して魔族が仕える、砂漠の都ナルマーン。孤児の少年ハルーンは囚われの少女に出会い、二人で逃げ出します。追手の魔族たちが抱える絶望と恨みが物語を深くし、常にそこかしこから見られているようで本を読む手を止められなくなります。二人を助けてくれる翼船と、船長アバンザの豪快なカッコよさが、逃亡を冒険に変えてくれます。

続編は『白の王』『赤の王』です。上橋菜穂子さんの『鹿の王』ファンの人、「王」つながりで読んでみませんか。



『僕らが生きているよのなかのしくみは「法」でわかる 13歳からの法学入門』

(遠藤研一郎：著/大和書房/2019.6)

私たちの住む世界には「法」があり、「法」によって社会はコントロールされています。

でも、普段の生活で「法」について考えることってあんまりないですね。しかし、著者によると、私たちの日常にはいつも「法」が溶け込んでいるのだそうです。本書は、YA世代のみなさんがイメージしやすい学校生活におけるルール=校則を、「法」を使って考えてみよう！という法学の入門書です。



「スマホ禁止の校則って必要？」「テストでカンニングをしたらなんでダメ？」「いじめって犯罪なの？」等々、身近な問題が取り上げられていて、解説がとにかくわかりやすいのが特徴。マンガも出てくるのでとっつきやすいし、論理的な思考を身につけるのにも役立ちます。

「スマホ禁止の校則って必要？」「テストでカンニングをしたらなんでダメ？」「いじめって犯罪なの？」等々、身近な問題が取り上げられていて、解説がとにかくわかりやすいのが特徴。マンガも出てくるのでとっつきやすいし、論理的な思考を身につけるのにも役立ちます。

『世界のはての少年』

(ジェラルディン・マコックラン：著 杉田七重：訳 装画：末山りん 装幀：岡本歌織 (next door design)/東京創元社/2019.9)

スコットランドの最西端、ヒルタ島に住む少年クイリアムは、仲間とともに「戦士の岩」と呼ばれる無人島へ出帆した。彼らは夏のあいだの三週間、海鳥を獲るために無人島で生活をする。海鳥を獲る仕事は、貧しい島の大事な収入源だった。

彼らは滞りなく仕事を済ませたが、ここで問題が発生する。約束の三週間を過ぎても、迎える船が一向に現れないのだ。

彼らの不安と焦りをよそに、季節は残酷に過ぎていく。そんな中、クイリアムは希望を失うことなく、仲間を励まし続ける……。

この本を読んだ人なら誰でも、彼らが島に置き去りにされた理由に驚くだろう。そして、その後の結末にも。

2018年カーネギー賞受賞作。読み応えのある小説を読みたい人におすすめです。



上記の本は、くにたち図書館に所蔵しています。貸出中の場合は、予約をしてね☆